

地域の情報

大学と附属特別支援学校における「早期幼児支援教室」の取組

細谷 一博*・永長 明之**・鳴海 さちみ**・木原 美桜***・
村田 穂佳***・成田 実香子***・菊池 美絵***・
根市 ひかる***・大橋 桃子***・高橋 彩子***

2010年1月から、北海道教育大学函館校（細谷研究室）と北海道教育大学附属特別支援学校における共同事業の一環として「早期幼児支援教室（きりのめキッズくらぶ）」を開始した。この事業は、附属特別支援学校におけるセンター的機能及び大学の授業、社会貢献の一環として位置づけている。

この早期幼児支援教室は、函館市内のA幼稚園に通園している園児を対象としており、発達が気になる園児やすでに診断を受けている園児が参加している。実施会場は、北海道教育大学附属特別支援学校の一室を利用し、参加幼児は保護者とともに来校している。

2010年1月から3月までは試行期間とし、5回の教室を実施し、実施内容や方法について検討を行った。2010年4月からは本格的に実施し、大学の臨床授業（障害児地域支援臨床、障害児表現活動指導法）に位置付け、毎週月曜日の午後に実施した。また、2011年度（26回目以降）からは、参加幼児数の増加及び会場調整の結果、隔週での開催とし、参加幼児と保護者の都合を考慮し、2グループ編成での実施とした。

本稿では、2010年2月の試行期間から2011年12月までの全37回の取組について紹介する。全活動の参加幼児数及び参加学生数を表1に示す。

試行期間では、年中児1名、年少児3名の合計4名の幼児が参加し、学生は4年生と附属特別支援学校の教員数名が担当した。本格実施となった2010年4月からは、年長児1名、年中児3名の4名の開始となったが、年度途中から年中児1名の参加があり、合計5名の幼児を対象に実施した。参加している幼児は、発達障害や自閉症スペクトラム、自閉症と診断された者が数名、診断を受けていないが発達が気になるという保護者の依頼により参加している者が数名いる。参加している幼児は、園生活における集団活動や指示理解などの困難が見られる。また、2011年度（26回目以降）は、年長児4名で開始したが、途中から年中児1名の参加があり、現在は5名（第1グループ：2名、第2グループ：3名）の幼児を対象に実施している。早期幼児支援教室の実際の流れを表2に示す。幼児は保護者ととともに来校し、開始時間まで自由遊びを行っている。その後、開始時間になると学生の指示で片づけを開始し、小集団指導が始まる。小集団指導は約20分間行い、その後、個別指導の

表1 早期幼児支援教室の実施状況

回数	実施日	登録幼児数	参加幼児数	参加学生数
1	2010/2/1	4	4	0
2	2010/2/8	4	4	6
3	2010/3/1	4	4	5
4	2010/3/8	4	4	5
5	2010/3/15	4	4	4
6	2010/4/19	4	4	9
7	2010/4/26	4	4	9
8	2010/5/10	4	4	8
9	2010/5/24	4	3	7
10	2010/6/14	4	4	8
11	2010/6/21	4	2	8
12	2010/7/5	4	4	7
13	2010/7/26	4	3	8
14	2010/8/2	4	4	8
15	2010/8/9	5	4	8
16	2010/9/13	5	5	8
17	2010/9/27	5	3	8
18	2010/10/4	5	4	7
19	2010/10/18	5	4	8
20	2010/11/1	5	4	8
21	2010/11/29	5	3	7
22	2010/12/13	5	5	8
23	2011/1/17	5	4	7
24	2011/1/24	5	4	8
25	2011/2/28	5	5	7
26	2011/4/25	4	3	0
27	2011/5/9	4	3	5
28	2011/5/23	5	4	6
29	2011/6/6	5	4	4
30	2011/6/20	5	4	5
31	2011/7/11	5	5	6
32	2011/7/25	5	4	6
33	2011/9/5	5	5	4
34	2011/10/17	5	3	6
35	2011/10/31	5	3	5
36	2011/11/21	5	4	6
37	2011/12/12	5	5	6

担当学生とともに別の部屋に移動し、約30分間の個別指導の時間が始まる。個別指導が終了した後は、そのまま保護者とともに下校する。小集団指導と個別指導ともに保護者も指導の様子をみる事が出来るように会場を設定している。

* 北海道教育大学教育学部

** 北海道教育大学附属特別支援学校

*** 北海道教育大学函館校人間地域科学課程

表2 各グループにおける活動の流れ

時間	活動内容	対象幼児*
第1グループ	自由遊び	
15:00~15:20	小集団指導	年長児：2名
15:20~15:50	個別指導	
15:50	下校	
第2グループ	自由遊び	
16:00~16:20	小集団指導	年長児：2名
16:20~16:50	個別指導	年中児：1名
16:50	下校	

*対象幼児は、2011年12月段階の参加幼児数



写真2

小集団指導では、集団活動場面で指導者の話を聞くことやルール性のある遊びなどの習得を目標として①はじめの会（呼名に対する返事や日付の確認、今日の流れの確認など）、②遊び（転がしドッチボール）を行っている。実際の指導は全て学生が行い、MT 1名、ST 2～3名（各幼児に1名を配置）で行っている。小集団指導の様子を写真1に示す。



写真1

また、個別指導では、「平仮名に興味をもたせる」「要求言語行動の形成」「手指機能の向上」などを目標として、学生4名、附属特別支援学校の教員1名が対象幼児の教育的ニーズに沿って指導を行っている。さらに、個別指導で行っている内容を卒業論文としてまとめた学生もいる。個別指導の様子を写真2に示す。

以上の2つの指導場を設定し、学生及び附属特別支援学校の教員が幼児への指導を行っているが、附属特別支援学校の教員と本学学生が一堂に集まり、支援教室で行っている個別指導についての報告会（実践交流会）を実施し、お互いの実践について学ぶ機会も設けている。

現在、本教室は大学と附属特別支援学校の共同事業の一環として、市内のA幼稚園に在籍している園児を対象としているが、今後、対象児の募集範囲をどのように広げていくかについては、受け入れ可能な人数や会場などを踏まえて検討が必要である。さらに、大学の臨床授業に位置付けたことで研究室に所属している学生はもとより、特別支援教育を学びたいという学生の臨床の場として活用することができる。

なお、本教室における取組については、第49回日本特殊教育学会にて発表（永長・鳴海・細谷，2011；鳴海・永長・細谷，2011）を行ったが、個別の指導成果については稿を改めて紹介することにする。

引用文献

- 1) 永長明之・鳴海さちみ・細谷一博（2011）特別支援教育における”幼児支援モデル”の提案～特別支援学校で行う幼児期の小集団・個別指導の取組の検討～. 第49回日本特殊教育学会大会発表論文集, 638.
- 2) 鳴海さちみ・永長明之・細谷一博（2011）早期幼児支援教室『きりのめキッズくらぶ』の取組～特別支援学校が行うセンター的機能の推進～. 第49回日本特殊教育学会大会発表論文集, 637.